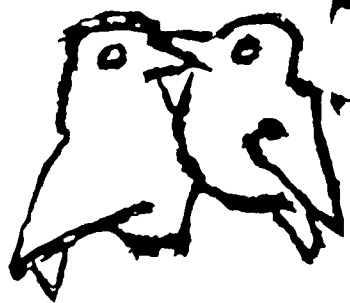


武者小路實篤全集

第一卷

武者小路  
實篤  
全集



第一卷

# 武者小路實篤全集 第一卷

昭和六二年二月一〇日 初版第一刷発行

著者——武者小路實篤

発行者——相賀徹夫

発行所——小学館

一〇一東京都千代田区一ツ橋 丁目二番一号  
振替 東京八一〇〇番

電話 編集、〇三二九二四三七〇

業務、〇三二三〇五三三三

販売、〇三二三〇五七二九

印刷製本——大日本印刷株式会社

用紙——三菱製紙株式会社

定価＝6800円

Printed in Japan ISBN4-09-656001-4  
© Mushakōji Saneatsukai 1987

\*著者検印は省略いたしました。 \*造本には十分注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。 \*本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

# 目 次

荒野

●小説

彼……………三

二日……………一八

聖なる恋……………三二

隣室の話……………三七

不幸なる恋……………四〇

●論文

人間の価値……………四三

正義の力……………四八

光の子と闇の子……………五三

背かせんが為なり……………五九

人生に就て……………六一

自戒……………六七

短文……………六八

●新体詩

女……………七二

男波……………七二

机によりて……………七二

人道の偉人……………七三

|      |    |
|------|----|
| 我が天使 | 七四 |
| 平和の人 | 七四 |
| 恋の悲劇 | 七五 |

|        |    |
|--------|----|
| お目出たき人 | 七七 |
|--------|----|

|        |    |
|--------|----|
| お目出たき人 | 七九 |
|--------|----|

●付 録

|          |     |
|----------|-----|
| 無知万歳     | 一〇八 |
| 生れなかつたら？ | 一一〇 |
| 亡友       | 一二二 |
| 空想       | 一二四 |

|       |     |
|-------|-----|
| 世間知らず | 一一七 |
|-------|-----|

|       |     |
|-------|-----|
| 世間知らず | 一一九 |
|-------|-----|

|        |     |
|--------|-----|
| AよりC子に | 一七〇 |
|--------|-----|

|        |     |
|--------|-----|
| 彼の青年時代 | 一八九 |
|--------|-----|

|        |     |
|--------|-----|
| 彼の青年時代 | 一九二 |
|--------|-----|

新編 生長……………二九三

●一九〇八年（明治四一年）  
クリンゲルの「貧窮」を見て……………二九五

四つの絵に頭はされたる快楽……………二九八

●一九〇九年（明治四二年）

彼女の手……………三〇二

猜みと尊敬……………三〇三

なまぬるい室……………三〇六

なまぬるい室—小さい櫛—秋が来た—全身に力が満ちた—淋しい—長い廊下—亀の

如し—お目出たう—わが一生

生れ来る子の為に……………三一二

自分と他人……………三二七

死の恐怖……………三二八

夢……………三三一

●一九一〇年（明治四三年）

「白樺創刊の辞」……………三三四

発刊に際して……………三三四

重い歌……………三三五

我にたよれ一二つの歌二人

「それから」に就て……………三二六

代助と良平……………三二三

賞翫者と批評家と創作家に……………三三四

作家に対する要求……………三三五

昔は……………三三六

五月雨……………三三六

ガイエルスタム作「トーラ」の梗概……………三三七

友達……………三四三

三つ……………三四五

個人主義の道徳—自分の筆でする仕事—逃げ場

ロダンと人生……………三四九

六号雑感〔1〕……………三五二

●一九一一年（明治四四年）

六号雑感〔2〕……………三五四

六号雑感〔3〕……………三五六

（猜みと尊敬）及び其他……………三五八

或男—友—或もの—自—我—ある聖人—一種の笑—人間—美と愛

六号雑感〔4〕……………三六二

武郎さんに……………三六四

恋人の夢を見て……………三六四

六号雑感〔5〕……………三六六

自分の立場……………三六七

日記の内より……………三六九

笑つてやりたい一世 問―我は鉄なり―自分の慾望―一生の為に―我はよわし―天才と

芸人―我を憎め!―嘲笑へ―我は輕蔑す―彼は天才か―自己と他人―誕生日に際し

ての妄想―他人の親切―今の自分の仕事―彼の風評―我は孤独に非ず―罪惡の犠牲者

―黙して歩け―ある批評家とある画家

成長……………三七七

自分達は―五十まで―意力をもつて―死―新らしき家―若い男と若い女―一人の女と

三人の男―師よ師よ―パン、ゴッホ―ホイットマン―ホドラー―ドストエウスキーの

顔―淋しき―汝よ―神の意志―巨人―卵の殻―鼓舞してくれる人―希望に満て

る日本―どつちが勝つか―泉の嘆き―別れた処―流―太陽と月―自由になる女―批

評家の輕蔑―百里歩く人と、千里歩く人

会 話……………三八四

宿屋の設計―氣の毒だね―ある意味で―わからない―負け惜み―不快な難つ児―土

台―ころばぬ先の杖―或種まく人―君の仕事

六号雑感〔6〕……………三八七

「個人主義者の感謝」と「能成君に」……………三八九

個人主義者の感謝—能成君に

六号雜感〔7〕……………三九四

人類からくる滋養分—会 話

六号雜感〔8〕……………三九七

動 機—ゴヤ、ドミエ、ミレー、ゴッホ

六号雜感〔9〕……………四〇〇

自己の爲の芸術—自我を庄へつけやうとするもの

手紙四つ……………四〇三

その一—その二—その三—その四

六号雜感〔10〕……………四〇六

日本人の悪口—遠い国よりの唄—自分の言葉の内にも—正直に顯はすために—拙劣な

技巧—十の力をもつ者が—沈黙すべき時に—あまり巧みなことを—模倣者—偉大な

る芸術家の技巧—個性—他人と喧嘩—今を昔に

李太郎君に……………四〇九

後印象派に就て……………四一〇

李太郎君に〔再び〕……………四一一

●一九二二年（明治四五年）

李太郎君に（三度び）……………四一二

他人の内の自分に……………四一六

ジョーソンの仲間—日本の若者の心臓を—口ダンから送られた三つの作品—自分は時々

一食ふことに—日本に理想的文学—他人の内の自分—自分の真価—生長と調和—ある

克己—無限の言葉—面白い時代

ある兄の返事

四二二

「自己の為」及び其他について

四二七

ロダンの彫刻の來た事について

四三〇

不倒翁

四三二

自分は弱いから強い—賞められる時と罵られる時—意志と恋—自分の内の君主—西洋の文豪—今の時代と青年—天才と自由—待たれてる人—富—籤—あるものは云ふ—赤坊の未来—一種の狂者—歩けるだけ—輕蔑と輕蔑—他人の言責—独立と友達—利己主義者としての自分—自分達と危険な思想—勝手な事—ある迷信(?)—躍—新しい人間の目ざしてゐる処—自分の尊敬する芸術家—生長した人—最も恐ろしい誘惑—価値ある文芸

或る若き女

四四一

或る若き男

四四四

今に見ろ

四五六

二人

四五七

生長

四五九

六号感想〔1〕

四六三

彼

四六三

六号感想〔2〕

四六六

個性に就ての雜感

四六七

三井甲之氏の白樺評を読んで……………四七二

ゴオホの二面……………四七五

Aの手紙三つ……………四七九

或人に「C子に一友に

雑感(1)……………四八三

自分のものをほめた人が一今の日本の創作一常に一人の敵を一疑問を入れよ一疑問の  
入れ方一生長に害のある人とは一今の時代一気がつかないふり一何事にもムキになる  
のは一日本人の特色(?)一味のぬけた塩のやうな小説一内容のリズムが一真の日本  
人は一旧劇一個性ある人一自然とか人類とか云ふ言葉一軽い思ひつきで一自分の感  
想と創作一或人に好かれるには一時的経験一真の詩人

三井甲之君に……………四八九

国民的と世界的一フオーグラ一氏の手紙、東洋思想と西洋思想一性格一マーテルリ  
ンクに就て一シヤバンヌ一再びマーテルリンク一自然派前一人類的、附乃木大将の殉  
死一個性、乃木大将の歌一靜的、靜止的

いろく……………四九七

俺の目一男と女一ある男の星一プラス、マイナス一光一耶蘇は一熟さない前一熟  
すと云ふこと一小鳥の独言一真綿で一もつと迫害一演説一孫と仕事一微笑一自  
分ではない、自然だ一自然の意志と道德一彼の驕慢一ある謙遜一団栗同士一彼は笑つ  
てゐる一笑はれる為一世間の後ろ指一神様はいゝ事一泣くな一押してくるもの  
一ある風評を聞いて一Aの独白一或若者の言葉一自分の境遇と性格と風

新聞記事……………五〇三

〔小品三ツ〕

五〇五

鰻と鮭—お城の殿様—善良な彼の女が

●一九二三年（大正二年）

再び三井甲之君に

五〇七

記憶のきれぐ

五一〇

父—自分の星—三十三の時の子—まい児—うがひ—祖母の目鏡—月は西から—海

老—鎌倉—運動会—アフガニスタンの王様—金田—姉の死

六号感想〔3〕

五二〇

ほめてくれる人—自分の言葉—ほめられても—自由にかきたいものを—聞き手があつ

てもなくつても—従軍記者ではない—充実しない時—人類と日本—面白くなつて来た

—巨人と批評家—美しいものと盲人—盲人と目あき—醜い女と美しい女—かう云ふ文

学—若い人の作は—材量と個性—今の自分とトルストイとマールリンク—偉い文士

と外国人

雑感〔2〕

五二五

大きい本物のないこと—自分が日本人を軽蔑してゐる？—彼等の言に従へば—他人を

軽蔑すること—自分のゆく道—西洋の一流の作家—誇大妄想狂だ—究極の点—愛と冷

酷—食ふことに困つても困らないでも—心と心の舞踏—今の自分にとつての謙遜—考

へなければならぬことを考へない人—一行でかけるものを—言葉の貧弱—こんなこ

とを思つてゐる人が何処かにゐる—あと八年—生長しつゝある人の自惚—賞められな

いことには不服はない—エネルギーのない時—身体をつかつてゐる人と頭をつかつて

ゐる人—鍛へるだけ鍛へたら—文芸と社会—社会改良家、記者、文士—詩人—生命

ある文章「筆をとる時」「文芸の士」「思想の借り着」

三井甲之君に

五三〇

雑感「3」

五三一

自己の要求する人「求めよ」他人の笛「パンを求めて」耶穌と神「王様の病氣」  
自分は尊敬したが崇拜しなかつた「自分に適応しない世間」世間を支配してゐるリズ  
ム「自己の歌」乃木大将「前の世の約束事」酸素に「生きる為には」見えない処「  
自分達は恐れない」如才ない人間「文芸の仕事」

「小品二つ」

五三六

韓信の股ぐり「Cの結婚と作物」

雑感「4」

五四〇

自分の文章をかく時「切りはなされた個人」或る作者と批評家「あいつ」賢い人「  
自分に荷へる重荷」充実したライフ

「或る画に就て」及び其他感想

五四三

ある画に就て「人類的の芸術家」文芸復興期に於けるミケルアンゼロ「日本と人類的  
の人間」同「二」力のある人間「人類的」君達は偉いよ「自己のある人」自我のな  
い奴「自己と人類」生命以上のもの「お前の創作」『今に』「現在」先輩「生き  
た思想と死んだ思想」ある人の詩「全体と部分」反響のない時「暫くかゝない理由  
（手紙の断片）」馬鹿は馬鹿同士「党派の真価」汝の仕事「いくら書いても」

自己の仕事及び其他

五五七

自己の仕事「自分達と彼等」自分達の空想「我が要求する物」協力

自分の友達

五五九

六号感想〔4〕……………五六三

文芸上に起る運動……………五六五

六号感想〔5〕……………五六七

雑感〔5〕……………五七一

運命の狂ひと祈り―運命に祝福された自我―先輩と自覚―作家の寿命と批評家―時運

と我等―運命と自分―自分達の空氣と自分

六号評……………五七五

「仏御前」に就て……………五七七

里見兄に……………五七八

雑感〔6〕……………五八〇

自己の生長の意識―大事な齡―西洋の文豪を氣にする理由―非常に安価な偶像破壊―

芸術には

六号感想〔6〕……………五八五

三つ……………五八七

自分の仕事と他人―闇に輝く光―を読んで―耶穌と神

●挿画に就て

挿画に就て……………五八九

コンスタンタン・ムニエ―

挿画に就て……………五九一

ルドキヒ・フォン・ホフマン

|                                                                  |     |
|------------------------------------------------------------------|-----|
| ルイ・ルグラン (Louis Legrand)                                          | 五九三 |
| 挿画に就て                                                            | 五九七 |
| エドファード・ムンヒ—アンダース・ツオルン—ルドキヒ・ホン・ホフマン—ヴィン<br>ツェント・ヴァン・ゴオホ—エミル・オルリツク | 五九九 |
| エドヴァード・ムンヒ                                                       | 五九九 |
| 挿画解説                                                             | 六〇五 |
| ドーミエに就いて—ゴオホに就いて                                                 | 六〇六 |
| 挿画に就て                                                            | 六〇六 |
| オデイロン・ルドン                                                        | 六〇八 |
| 本号の挿画に就て                                                         | 六〇九 |
| 技巧に就てのロダンの言葉                                                     | 六一二 |
| 挿画に就て                                                            | 六一五 |
| ●編輯室にて                                                           |     |
| 旅からの通信〔明治四三年五月号〕                                                 | 六一七 |
| 近作批評〔明治四三年六月号〕                                                   | 六一八 |
| 寄贈書籍及雑誌〔明治四三年七月号〕                                                | 六一〇 |
| 編輯室にて〔1・明治四三年八月号〕                                                | 六一〇 |
| 批評〔明治四三年九月号〕                                                     | 六一一 |
| おみよ 上巻 (水野舟葉著) 一笛 (小山内薫著)                                        | 六一二 |
| 寄贈書籍雑誌〔明治四三年一〇月号〕                                                | 六一二 |

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 編輯記事〔2・明治四三年一月号〕……………        | 六二二 |
| 編輯室にて〔3・明治四三年二月号〕……………       | 六二三 |
| 新刊批評及紹介〔明治四三年二月号〕……………       | 六二五 |
| レモンの花の咲く丘へ〔国枝史郎著〕……………       |     |
| 自由劇場試演に就て〔座談〕〔明治四四年一月号〕…………… | 六二五 |
| 編輯室〔4・明治四四年一月号〕……………         | 六三一 |
| 寄贈書目〔明治四四年二月号〕……………          | 六三三 |
| 闇〔小川未明著〕……………                |     |
| 編輯室より〔5・明治四四年四月号〕……………       | 六三三 |
| 編輯室にて〔6・明治四四年五月号〕……………       | 六三四 |
| 札幌より〔明治四四年六月号〕……………          | 六三六 |
| 編輯室にて〔7・明治四四年六月号〕……………       | 六三八 |
| 新刊紹介〔明治四四年七月号〕……………          | 六三九 |
| 幻影と夜曲  秋田雨雀著……………            |     |
| 編輯室にて〔8・明治四四年七月号〕……………       | 六三九 |
| 編輯室にて〔9・明治四四年八月号〕……………       | 六四〇 |
| 編輯室にて〔10・明治四四年九月号〕……………      | 六四二 |
| 編輯室にて〔11・明治四四年一〇月号〕……………     | 六四三 |
| 編輯室より〔12・明治四四年十一月号〕……………     | 六四四 |